

~古き良き時代の記憶~



撮影:76年4月7日

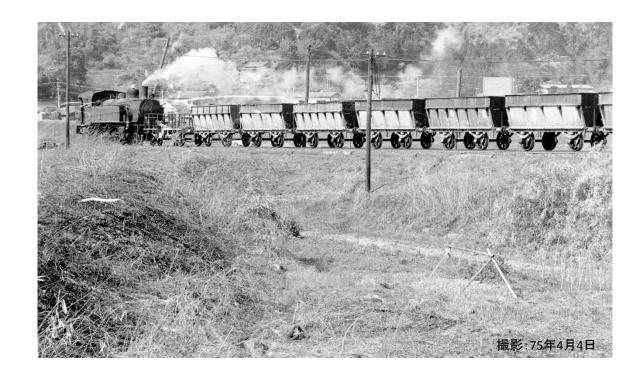
〈<思い出の貝島炭鉱専用線〉〉</p>
一九州最後の現役蒸気が走る風景ー

~石炭のふるさと筑豊最後の炭鉱~



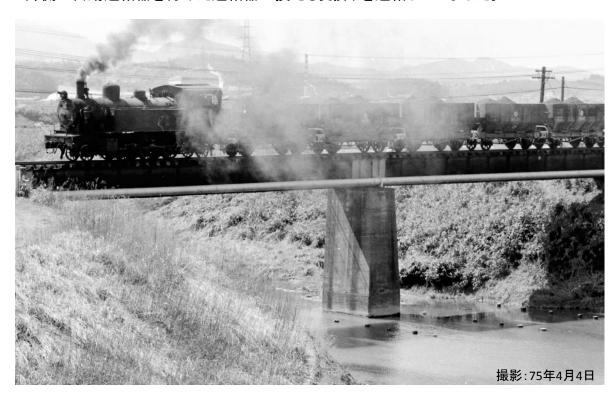
九州の国鉄線上からSLが完全に姿を消した後も、筑豊の片隅・長井鶴にある六坑と筑前宮田駅の間の2kmほどの貝島炭鉱鉄道には、蒸気機関車が走っていました。

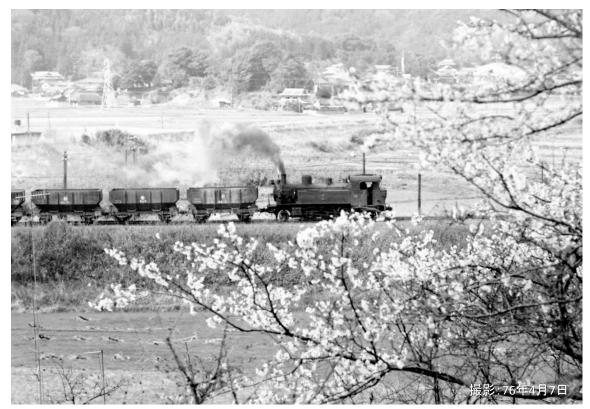
2両のアメリカン・ロコモティブ車と2両のドイツ・コッペル車は、静かな余生を送っていました。





アルコ22号は日本国内で唯一のリンク式カプラーを持つ現役機関車でした。 片側に自動連結器を付けた連結器に換える変換車を連結していました。





筑豊地区有数の炭鉱であった貝島炭鉱からの石炭積み出しのため、1902(明治35)年に開通しました。

しかし、国の石炭政策の変化とともに衰退し、1976(昭和51)年7月に最後の貝島炭鉱が閉山したことにより、1世紀に及ぶ筑豊炭田の歴史は終焉を迎えました。



桜のむこうをコッペルがのんびりと走る。



貝島炭鉱鉄道の蒸気機関車の火を落としたのは、1976年7月3日だったそうです。



撮影:76年4月7日